

特定非営利活動法人
災害救援レスキューアシスト



We are *SHINSEKI* (心跡)
「ボランティアは何も残せないけど、心の足跡は残せる」



災害救援レスキューアシストとは

日本各地の被災地で多くの災害救援活動に参加し、様々な方と出会いました。その中で、要配慮者とされる「障がい者・高齢者・外国人・妊産婦・難病患者・子供」への支援が阪神・淡路大震災当時からほとんど変わっていないことを知り、何度ももどかしい思いをしてきました。

しかしながら、多くの災害現場において色々な団体・個人ボランティア・被災地の方と関わり、信頼し協力し合える仲間とのつながりを深めることができました。だからこそ被災した地元のNPO・社会福祉協議会・行政・自衛隊・消防と連携して力を合わせるように努力することで現状が少しずつ変わって来ています。

私たちは被災された方々の代わりにはなれません。しかし少しでも被災された方々の目線で、本当に必要な支援の方法を考え行動いたします。

災害救援レスキューアシストは今までの経験を踏まえどんな小さなことでもアドバイスし、災害発生時だけでなく平常時から多くの方に寄り添った活動をいたします。

災害救援レスキューアシストの目標

平常時の取組 ～要配慮者へ防災教育の実施

社会福祉協議会や教育機関、障がい者団体から依頼を受け、子供たちや障がい者などの要配慮者や地域の方々に向けた防災教育・防災訓練・防災アドバイス・講演会などを実施します。

災害発生時 ～24時間から72時間での現地入り

災害発生後は、24～72時間以内での現地到着及び活動開始を目標にしています。

要配慮者を中心とした住民への早期支援を中心に支援活動を行い、必要に応じて継続支援も行います。どのような支援が必要なのか迅速に判断し復興へのアシストをします。

「ロゴマークの8つの意味」 ～要配慮者を表現しています～



災害時すべての弱い立場の人の救援を目指しています。

レスキューアシストのロゴマークには、すべての人の心【ハート】を楽にして一つにしたいという意味が込められています。それぞれの色が持つ意味は左の通りです。



「れ」「す」「き」「ゆ」「ー」「あ」「し」「す」「と」

世界共通手話「アイラブユー」▲手と手で伝わる想いも大切に

平常時の活動

災害救援レスキューアシストでは「自分の命を守る」ための防災・減災の活動に取り組んでいます。

なぜ災害がないときに講習をするの？

特に要配慮者にとって、災害発生時に避難所に避難することは最善の策ではありません。自宅の被害が少ないのであれば避難せずに、自宅でそのまま生活することがリズムを崩さない一番の方法だと考えます。だからこそ、平常時から要配慮者の防災・減災・耐震を考え、また災害時にどうするべきかを決めておくことが何よりも大切です。



武ちゃんマン

平常時から備える

講演会・講習会・訓練

全国各地での防災・減災の講演会や屋根のブルーシート張り講習会、防災訓練のアドバイスなど随時行っております。また、活動報告のパネルの貸し出しも行っております。詳しくは、ホームページもしくはフェイスブックページからお問い合わせください。



訓練のサポートも行っています

平成26年台風被害による徳島県海陽町への支援をきっかけにして、毎年高校生を対象とした講演会や、海陽町内の地域防災訓練の指導を行っております。レスキューアシストでは、未来を担う若い世代を育てることに力を入れています。



情報発信

災害救援レスキューアシストでは様々な方法で情報を発信しております。

日々の活動内容や報告、お知らせなどをフェイスブックに投稿しています。是非ご覧いただき、災害救援レスキューアシストの活動にご理解、ご協力を賜りたくよろしくお願いいたします。

ホームページ



<https://www.rescue-assist.net/>

YouTube



https://www.youtube.com/channel/UCJNpRP_SkqgPvM44aj_2Wa4A

フェイスブック



<https://www.facebook.com/rescueassist/>

今すぐ役立つ減災・防災のワンポイントアドバイスを配信中「チャンネル登録」お願いします。

写真でみる緊急時の活動内容例

ボランティアの受入れ



全国各地から駆け付けるボランティアを受入れ。

ボランティアセンター運営支援



社会福祉協議会のみなさんと話し合いながらセンターを開設。

現地コーディネート



様々な立場、技術を持つ方と連携しながらより良い支援を模索。

支援物資の配布



障がい者施設等、要配慮者に向けた支援を優先。

物資の受入れ



各地から必要な資機材、物資の支援をいただきながら活動。

ニーズ調査



現地の状況に合わせた、今必要な支援を検討するために調査。

屋根の応急処置



屋根の上での高所作業。ブルーシートを張り応急処置をする。

地元に技術をつなぐ



支援者が撤退後も地元の力で活動していけるように技術を伝授。

被災地から被災地へ



全国各地から、アシスト瓦に想いをのせて支援のキモチが届く。

イベント実施（整体など）



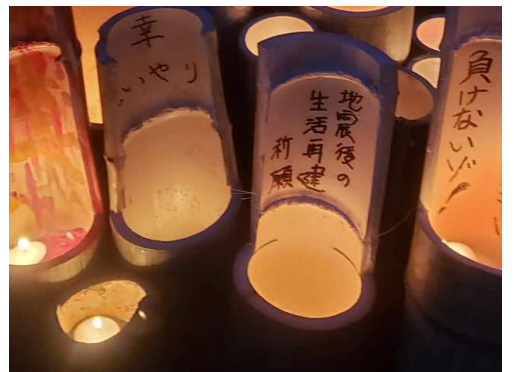
技術系のボランティアだけでなく住民を癒す活動も取り入れる。

被災地にお祭り



被災地を少しでも明るくしようと様々なプロジェクトも企画。

竹灯籠の追悼行事



活動を終えても、毎年想いを届けに。私たちはつながり続けます。

今、あなたにもできること

ある日のボランティアの1日

お疲れさまでした

午前の活動

午後の活動

振り返り

9:00

集朝
合礼

12:00

昼食

15:00

終礼

16:30

解散



受付をします



よろしくお願いします



昼食はしっかりとります



振り返り、引継ぎ

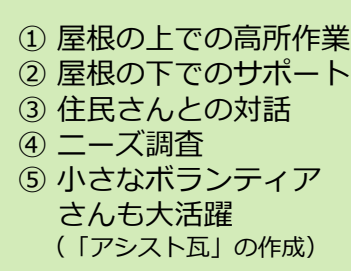
誰にでも
できることはある



武ちゃんマン

活動は様々です。その時に必要な活動と、ボランティアに来てくださった方の技術や能力などを相談して活動を決めます。大切なことは「安全確保」。万が一のことがあれば、被災された住民さんを悲しませることになります。被災された住民さん、ボランティアさん双方に余計な負担をかけないためにも、まずは安全に活動することが大切です。

ボランティア活動内容例



- ① 屋根の上での高所作業
- ② 屋根の下でのサポート
- ③ 住民さんとの対話
- ④ ニーズ調査
- ⑤ 小さなボランティアさんも大活躍
(「アシスト瓦」の作成)



見えない努力

活動ベースは、住民さんが相談にきたり、ボランティアさんを受け入れたりします。気持ちよく活動できるように、日々、愛情込めて整備しています。



番外編：宿泊ベース

連日活動できる方は宿泊ベースもあります。みんなでご飯を作り、みんなで「いただきます」。食事を取りながらのコミュニケーション。時には食後に急遽ワンポイントレッスンが始まったり、翌日の相談をしたり、お誕生日会をしたり。ここはまさに1つの大きな家族のような場です。

※被災地の状況により、宿泊場所は用意できない場合もあります。ボランティア募集の情報等を確認してご参加ください。



ボランティア、はじめませんか？



ボランティアをやって
いいことある？

ボランティアに参加し被災地を身近に感じることで得ることは多々あります。経験問わず老若男女問わず、まずは、是非一度ご参加ください。



武ちゃんマン

大切な仲間ができるかもしれません。

住民さんの笑顔に出会えるかもしれません。

被災地から被災地へ。想いの連鎖に立ち会えるかもしれません。

ボランティア活動にはたくさんの可能性が詰まっています。「何かやりたい」「役に立ちたい」そう思ったらまず一步を踏み出してみてください。レスキューアシストはその一步を受け入れます。

～できる人が、できる時に、できることをする～

小さなきっかけが人生を変える

2016年の熊本地震では、熊本市や熊本市社会福祉協議会と連携のもと、熊本市東区に民間のボランティアセンターを複数の団体と協働で立ち上げ、その後2018年の4月まで2年に渡り活動をしました。その活動の中、ある避難所で一人の青年に出逢いました。

「何かできることはありませんか？」
彼は地震で家も職も失い、避難所にいたのです。

「時間があったから」
声をかけたきっかけをそう話す青年は、見た目は金髪の今どきの若い青年…。武ちゃんマンはその青年を受入れ、一緒に活動を続けました。

2018年春、レスキューアシストが熊本を離れる際にはその意思を受け継ぎ、『レスキューアシスト熊本』を設立。地元の継続支援や要援護者のお手伝い、また減災活動や全国への恩返しのために今でも活動を続けています。

彼曰く「代表（武ちゃんマン）に出逢わなかったら、今ここで活動していないかもしれない。代表は俺にとって師匠であり尊敬する一人。必要とされる限り、活動を続けようと思ってるよ。」



若い力を育てよう

『レスキューアシスト熊本』の活動もぜひ応援してください。

<https://www.facebook.com/rak20160414>



徳島県海陽町の訓練では、災害時に高校生自身が活躍できるようにと、地域の高齢者の家を訪問し、ボランティア活動を行うという新しい訓練のかたちを作りました。普段から顔の見える関係を作っておけば、いざというときに「あのおばあちゃん大丈夫かな」って思い浮かぶ。人と人、地域とをつなぐきっかけが作れるのも、様々な被災地で活動しているレスキューアシストだからこそ。支援活動で得た学びを次の世代へつなげていくことも、また大切な活動のひとつだと考えています。

ご支援のお願い

多くの方や企業の方からご支援をいただき活動を行っていますが、それだけではとても十分とはいえません。東日本大震災や熊本地震など大規模災害では復興が遅れ、多くの被災者が取り残されてしまうこととなりました。いつ自然災害が起こるかかわからない日本において、今後も災害救援レスキューアシストは多くの方々の心に寄り添った支援を行います。皆様からいただいた救援活動支援金は、救援資器材や道具の購入及び維持費、また日々の救援活動費や、ボランティアの方々が安全に活動できるようにベース運営資金などにも活用させていただきます。何卒よろしくご支援申し上げます。

【郵便局からのお振込み】

口座名義：特定非営利活動法人
災害救援レスキューアシスト

記号：14060
番号：32645931

【その他金融機関からのお振込み】

口座名義：特定非営利活動法人
災害救援レスキューアシスト

銀行名：ゆうちょ銀行
店名：四〇八（ヨンゼロハチ）
店番：408
預金種目：普通預金
口座番号：3264593



ご支援くださる企業のみなさまへ

ご支援くださる企業様の社名等を、ユニフォームや車両に入れて活動させていただきます。またご要望がございましたら、できる範囲で社内防災につながるお手伝いもさせていただきます。

会員募集のご案内

災害救援レスキューアシストでは、支えてくださる会員を募集しております。

- ① 正会員（年会費5,000円）事業に賛同し入会する会員。表決権を保有します。
- ② 賛助会員（年会費3,000円）事業を賛助するための会員。
- ③ マンスリーサポート会員（月額一口500円を毎月自動引き落とし）※準備中

正会員・賛助会員にならなくても今まで通りのボランティア活動に参加していただくことができます。また、ボランティア活動に参加されない方でも、会員になっていただくことができます。

ご希望の方はメールや
Facebookでご連絡ください

「最後に」

レスキューアシストは「置き去りになる人、忘れ去られる人をつくらない！」その想いをもって設立した団体です。

災害によって、突然人生が変わった人たちが沢山います。突然大切な家族を失った人たちもいます。私たちは、辛い思いをされた人たちと同じ気持ちになることはできませんが、「自分には関係ない」ではなく、何ができるのか、少し考えて欲しいと思っています。

毎年災害が起こりすべての災害を覚えておくことは出来ません。しかし、せめて災害から何年という節目だけでも、どのような災害が起こったのか、少しでも思い出して欲しいと願います。

一つひとつの災害を教訓にして、次にくる災害に備える事が「命を守る」ことにつながるのです。



団体概要

名称 特定非営利活動法人 災害救援レスキューアシスト
設立 2016年2月任意団体設立・4月より活動
2019年7月10日法人化

代表理事 中島武志
拠点 大阪府茨木市松ヶ本町3-16 バーデンスクラブビル526
連絡先 070-6541-5489
メール rescueassist.japan@gmail.com

